

## 学習の流れの例

- 1 p.30の洪水ハザードマップのQRを使い住んでいる地域を確認し、「ハザードマップをチェック」に記入する
- 2 マイタイムラインについて知る
  - 風水害は安全なうちに避難ができることを再確認する
- 3 p.30-31の警戒レベルの表とハザードマップを参考にマイタイムラインを作成する

## 学習後の生徒の姿

思考・判断・表現

ハザードマップや警戒レベルをもとに、安全に避難できるように見通しを持って避難計画を検討している

このページの

指導案 ワークシート

はコチラから!

①マイ・タイムラインとは、住民一人ひとりの防災行動計画であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするもの。

※参照：国土交通省「マイ・タイムライン」

②市町村から避難情報が出ていない場合でも、防災気象情報を参考にしながら、適切な避難行動をとれるようにする。いざというとき、安全に避難行動がとれるよう、普段から自分が住む地域の災害リスクや避難場所、安全な避難経路などを確認しておく。

※参照：厚生労働省「避難所生活で健康に過ごすため、以下の点にご注意ください」

③<ハザードマップとは>

自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図。

※参照：国土交通省国土地理院「ハザードマップ」

住んでいる場所が想定区域に当てはまる場合は□に✓を入れる。

住んでいる場所に洪水の危険性がある場合は川の名前と想定最大規模の浸水深を記入する。

④家の外にいる場合、むやみに帰宅や移動せずに近くの安全な場所へとどまる。警戒レベルが高くなるほど避難が難しくなるので、早い段階での避難を心掛ける。(以下のサイトには、「正常性バイアス」や「同調性バイアス」に陥っていることがわかる被災者の証言が書かれている。)

※参照：広島県「私たちはなぜうまく避難できないのだろう」

⑤避難の判断によって、生死が分かれる場合があるということを知っておく。避難するかしないかは人任せにせず、ラジオ・テレビや行政等からの情報、自分の感覚等で確かめた情報をもとにして判断することが大切。

※参照：交通省「水災害からの避難訓練ガイドブック」

⑥<垂直避難とは>

頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難すること。

※参照：横浜市「浸水ハザードマップ(神奈川区)」

⑦<水平避難とは>

避難場所、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など安全な場所へ避難すること。(全ての避難所が開設されるわけではないので、避難する前にどの避難場所が開設されているか市・区ホームページ等で確認する。)

※参照：神奈川区横浜市「浸水ハザードマップ(神奈川区)」

洪水ハザードマップで自分が住んでいる地域の確認をし、マイ・タイムラインの作成に役立てる。マップ上でぎりぎり想定区域でなかった場合も、「もしかしら想定を超えるかもしれない」という気持ちで計画を立てる。

学校で登校に関する決まり事があれば確認しておく。

### マイ・タイムラインを作る

風水害などの避難行動計画を「マイ・タイムライン」といいます。事前に計画を立てておくことで、より安全に避難ができます。

めあて ハザードマップの見方や警戒レベルを知り、避難計画を立てる。 ワークシート

**ハザードマップをチェック**

自分が住んでいる地域は？  
 浸水想定区域である  
 土砂災害警戒区域である

住んでいる場所の浸水深は？  
 (想定最大規模)例：鶴見川、3～5m  
 [ 川、 m]

横浜市防災センターで、マイ・タイムラインの書き方を教えてくれるよ!

洪水ハザードマップ  
自宅が浸水かどうかと浸水深を調べられます。

**とるべき避難行動を考える**

自宅が浸水想定区域内や土砂災害警戒区域内にある

屋内待機 安全と思われても状況に応じて避難を検討する

・建物ががんじょう  
・マンションなどである

ハザードマップの最大浸水深などを考えたと垂直避難で安全が確保できる

垂直避難 (建物の2階以上)

水平避難 (避難場所など)

### 風水害で避難するときの注意点

雨風が強まる前に早めの避難をしましょう。避難するタイミングが遅れると、危険が高まってしまいます。

**冠水した場所は通らない**

浸水の深さが膝の高さを超えると、歩いて避難することが困難になります。水に流れがあると浅くても流されることがあるため、注意が必要です。

**足元を確認しながら慎重に**

氾濫した水は茶色く濁っていて、道路の状況がわからないため、大変危険です。傘や杖などで足元を確かめながら歩き、ふたの外れたマンホールや側溝などに転落しないように注意しましょう。

**状況に応じて身の安全の確保**

すでに災害が発生し、避難所への移動が危険な場合は、自宅の2階以上や近くの高い建物に避難しましょう。周りの状況を慎重に判断して行動することが大切です。

**アンダーパスに注意**

周りに比べて低い場所は、短時間で急激に水が流れこんだり、増水したりして危険です。冠水しやすいアンダーパスでは、車が浸水してエンジンが止まったり、水圧でドアが開かなくなったりするおそれがあります。

**横浜市避難ナビ**

「横浜市避難ナビ」は、一人ひとりの避難行動を平時である「いま」から災害時である「いざ」まで一体的にサポートするアプリです。マイ・タイムラインの作成から避難所検索、災害時の避難情報の受信などができます。 災害時の防災情報ガイド▶p.41

警戒レベル	1 災害への心構えを高める	2 自らの避難行動を確認	3 危険な場所から高齢者等は避難	4 危険な場所から全員避難	5 命の危険ただちに安全確保
行政からの情報等		自主避難などの注意の呼びかけ	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
警戒レベル相当情報 <small>気象庁 防災気象情報を発表</small>	早期注意情報	大雨注意報・洪水注意報等	氾濫警戒情報 大雨警報・洪水警報等	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報等	大雨特別警報等
避難行動のヒント	みんなが実施 <input type="checkbox"/> 天気予報を確認 <input type="checkbox"/> 家の点検・補強 <input type="checkbox"/> 非常持ち出し品や備蓄品の確認 <input type="checkbox"/> 停電に備えた懐中電灯や水など	避難場所などに避難する場合 <input type="checkbox"/> 備蓄品などが水浸しないように安全な場所に置く <input type="checkbox"/> 高齢者や障害のある人、小さな兄弟姉妹、ペットがいたら家族と話し避難方法を決める	避難場所などに避難する場合 <input type="checkbox"/> 避難場所・開設状況の確認(区HPや防災情報Eメール) <input type="checkbox"/> 避難の準備 <input type="checkbox"/> 高齢者や障害のある人など、避難に時間を要する人は避難開始	みんなが実施 <input type="checkbox"/> 避難開始 避難指示が出たら、危険な場所から全員避難 <small>※避難場所などに避難しない場合にも、家の2階など安全な場所に避難しよう</small>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="margin-bottom: 10px;"> <b>命を守るベストな行動をとる</b> </div> <div> <b>屋内の安全な場所への避難</b> </div> </div>
30			登校前 午前6時の段階で、横浜市内に「学校が指定した風水害の警報」が発表継続中の場合は休校となる。		31

①洪水時には河川からあふれた水が襲来するため、流れがあって当然。この流れに体が流されてしまうと、溺死することがある。(サイト内に動画あり)

※参照：Yahoo! ニュース「流れのある洪水 歩いて避難できるか? その判断基準は」

②アンダーパスとは、交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺より低くなっている道路のこと。通常の雨であれば、ポンプが働き、排水をするが、大量の雨や、停電、ポンプにゴミがつまるなど十分に排水できず冠水する場合がある。

※参照：瑞穂市「アンダーパスの通行にご注意を」

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明  
 青文字：生徒への支援の視点や発展的な内容